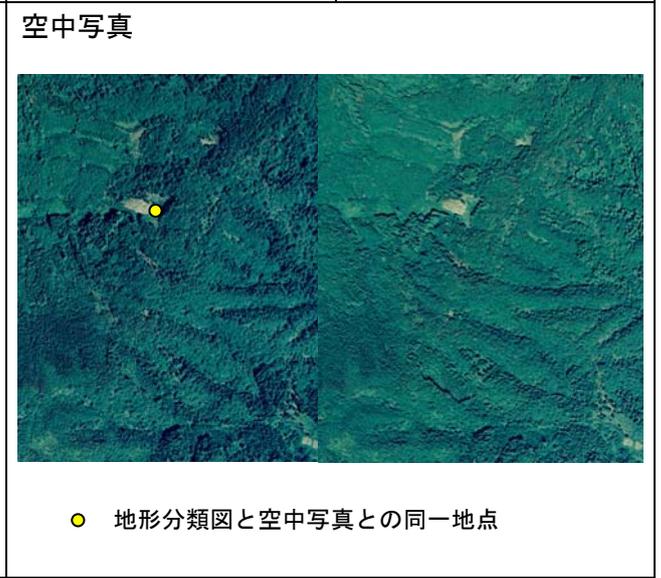
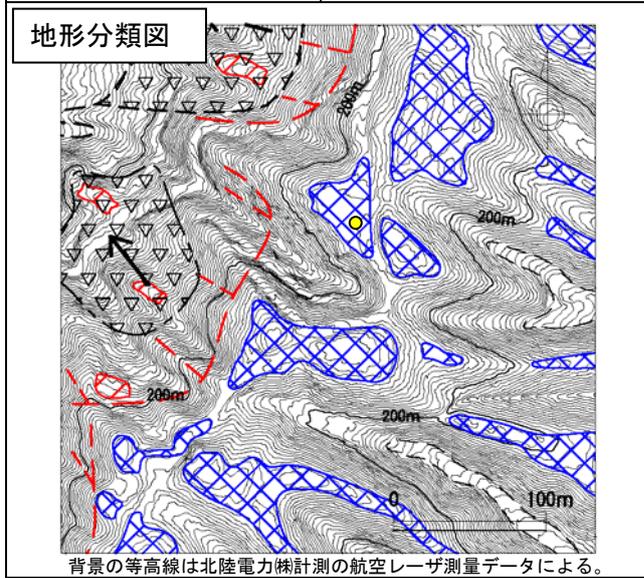


作成日：2009年1月16日（改訂日：2009年8月17日）

総図名	七尾	1/2.5万図名	(下唐川・中島)
対象地点の中心	北緯 37° 09' 46.17"	東経 136° 47' 34.01"	Area C(1)

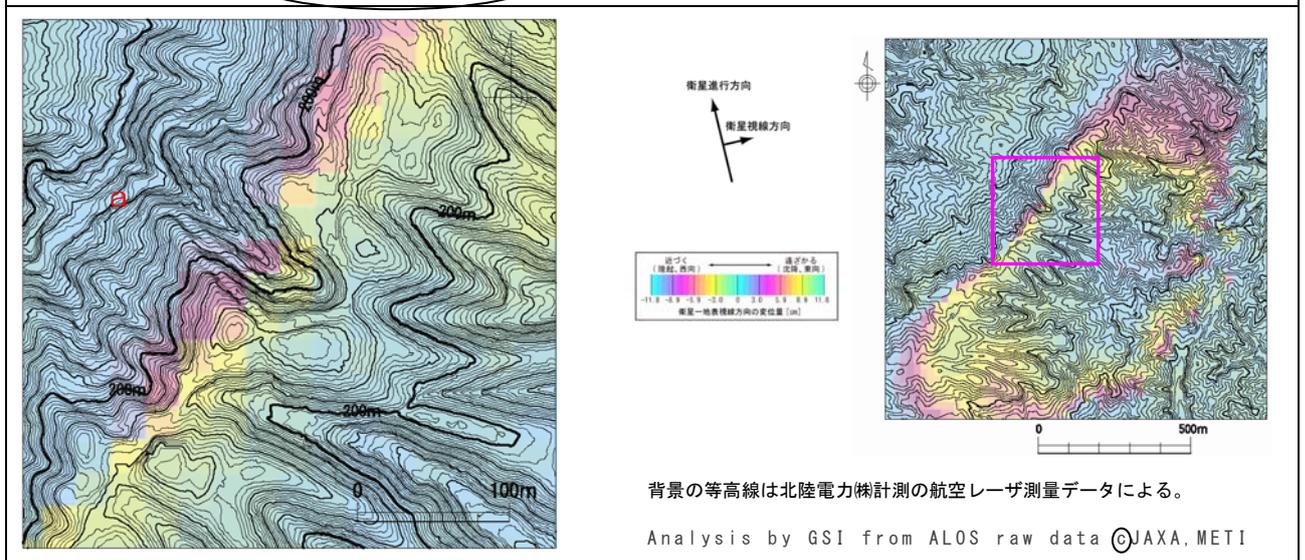


SAR干渉画像：アセンディング；オフナディア角：41.5°；基線長 Bperp：+432 m

撮影年月日：2007年2月23日～2007年4月10日

解像度：~~FBS~~/FBD (2007年2月23日) / ~~FBS~~/FBD (2007年4月10日)

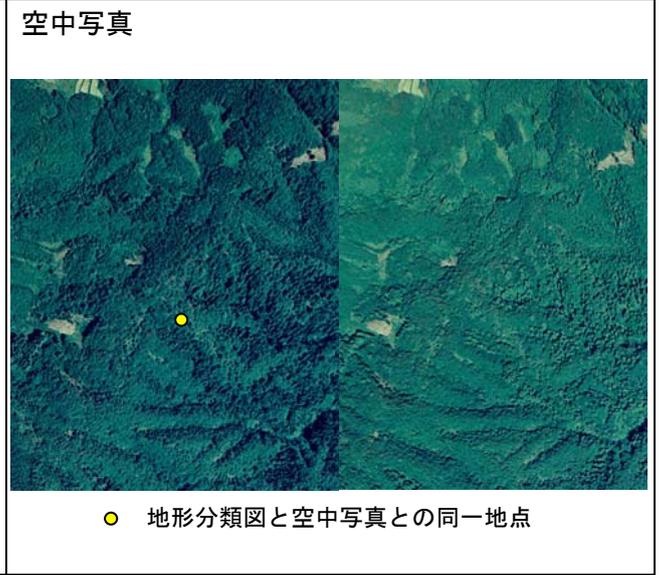
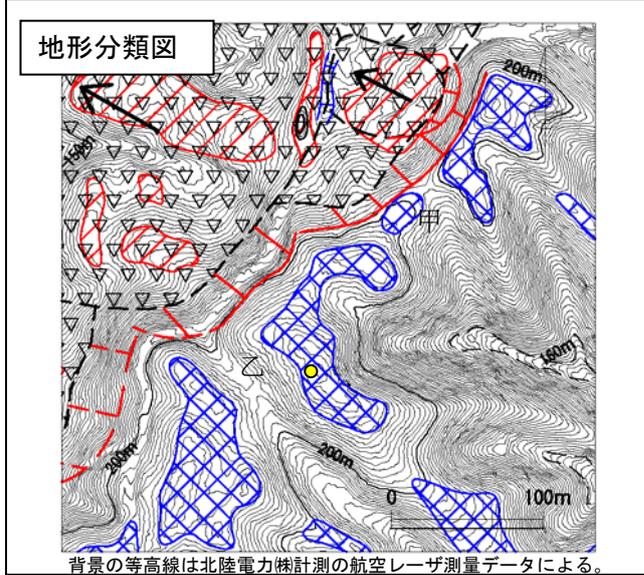
衛星の視線方向：~~西側上空から東向き~~ / 東側上空から西向き



備考：
 小起伏面～急崖（滑落崖）上部
 ①干渉縞：明瞭
 ②視線方向の色変化：（馬蹄形変動の外部の無変化の青色部分 a を基準に西から東へ向かって）
 青→赤→黄色
 ③移動方向：東へ遠ざかるないしは沈降
 小起伏面と滑落崖との境界付近に位置する。滑落崖は開析され、深い沢が穿たれている。沢の頭部は小起伏面まで達している。現地調査では、干渉色が青色から赤色に変化する付近の直上（上図の左、X地点）で湧水（10 リットル/分）が確認され、この直下流に安山岩質溶岩の堅岩が分布することを確認した。すなわち、干渉縞は、新鮮で硬質な岩盤が露出する地点及び湧水点付近より高標高部の風化帯に位置する。

作成日：2009年1月16日（改訂日：2009年8月17日）

総図名	七尾	1/2.5万図名	(下唐川・中島)
対象地点の中心	北緯 37° 09' 53.68 "	東経 136° 47' 42.04 "	Area C(2)

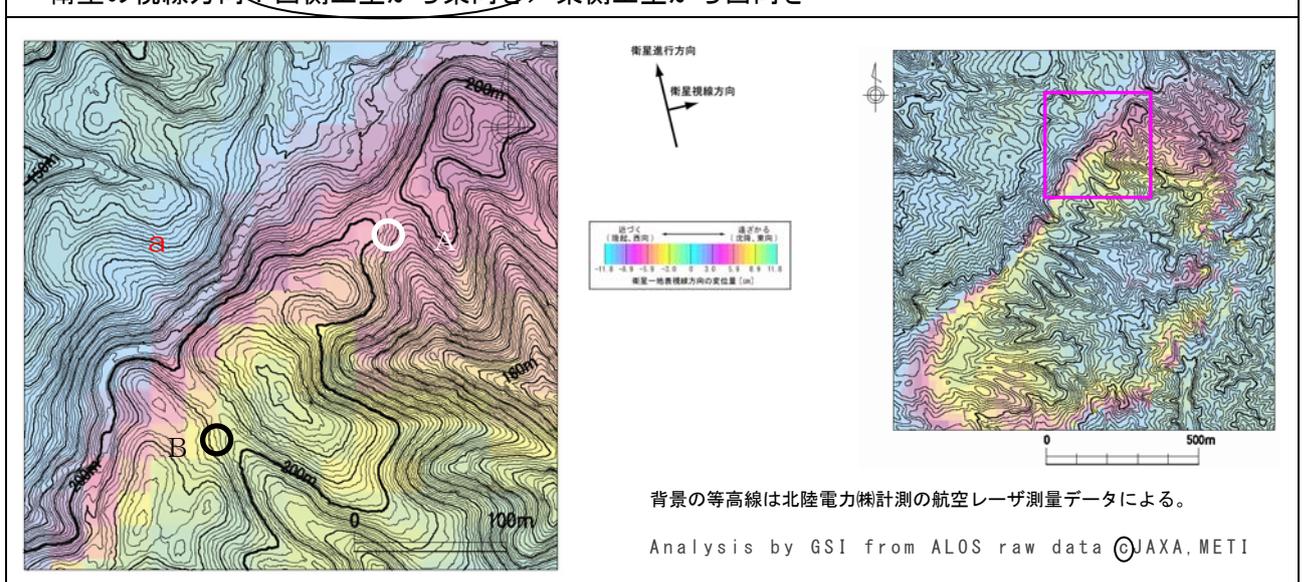


SAR干渉画像：アセンディング；オフナディア角：41.5°；基線長 Bperp：+432 m

撮影年月日：2007年2月23日～2007年4月10日

解像度：(FBS)/FBD (2007年2月23日) / (FBS)/FBD (2007年4月10日)

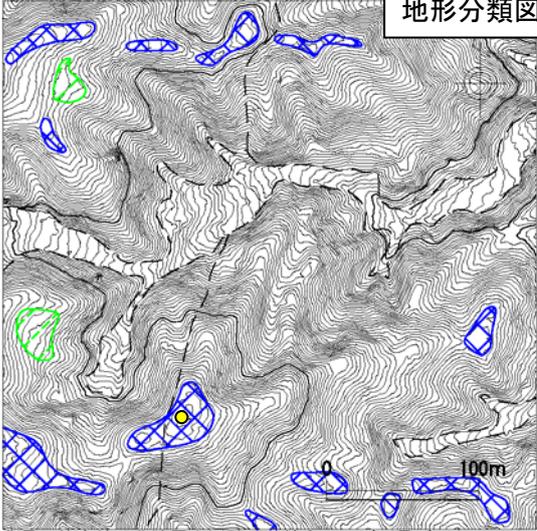
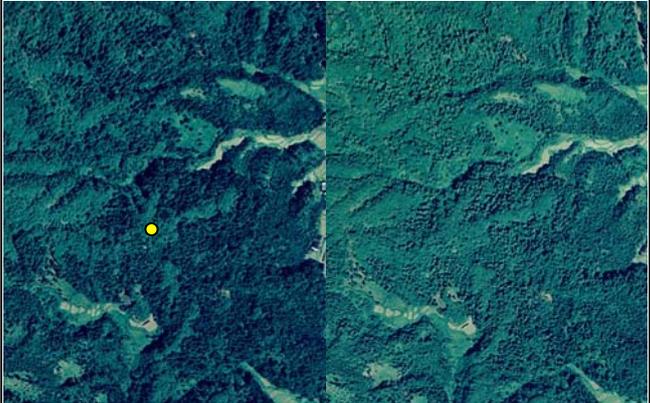
衛星の視線方向：西側上空から東向き / 東側上空から西向き



備考：
 小起伏面～滑落崖上部
 ①干渉縞：明瞭～不明瞭（幅広）
 ②視線方向の色変化：（馬蹄形変動の外部の無変化の青色部分 a を基準に西から東へ向かって）
 青→赤→黄色
 ③移動方向：東へ遠ざかるないしは沈降
 干渉縞が明瞭な部分から不明瞭（幅広）の部分に変わる付近であり，小起伏面と滑落崖との境界付近に位置する。北西に面する2つの滑落崖（地形分類図の「甲」「乙」）があり，共に明瞭であるが，開析程度にわずかな差がある。A地点及びこれより北方では，南東側斜面の沢は滑落崖「甲」で切られる明瞭な截頭谷である。一方，B地点より南方にも截頭谷が分布するが，滑落崖「乙」は開析されていることが多く，南東に向かって流下する沢の源頭部は北西に面する滑落崖に至っていないことが多い。

作成日：2009年1月16日（改訂日：2009年8月17日）

総図名	七尾	1/2.5万図名	(下唐川・中島)
対象地点の中心	北緯 37° 09′ 40.34″	東経 136° 47′ 54.78″	Area C(3)

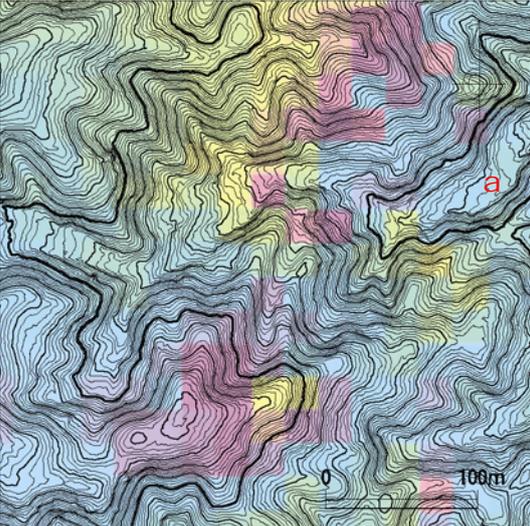
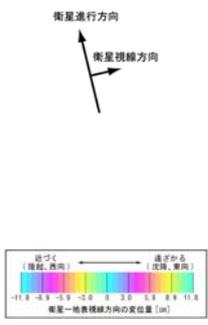
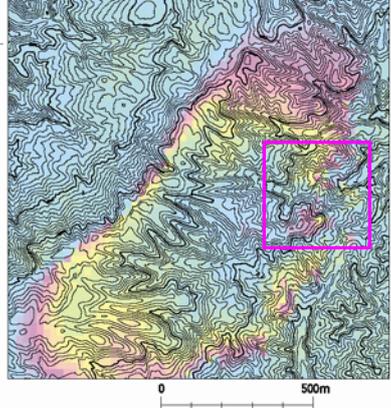
<p style="text-align: center;">地形分類図</p>  <p>背景の等高線は北陸電力株式計測の航空レーザ測量データによる。</p>	<p style="text-align: center;">空中写真</p>  <p style="text-align: center;">● 地形分類図と空中写真との同一地点</p>
--	--

SAR干渉画像：アセンディング；オフナディア角：41.5°；基線長 Bperp：+432 m

撮影年月日：2007年2月23日～2007年4月10日

解像度：(FBS) / (FBD) (2007年2月23日) / (FBS) / (FBD) (2007年4月10日)

衛星の視線方向：(西側上空から東向き) / (東側上空から西向き)

	  <p>背景の等高線は北陸電力株式計測の航空レーザ測量データによる。</p> <p>Analysis by GSI from ALOS raw data ©JAXA, METI</p>
---	--

備考：

小起伏面～滑落崖上部

①干渉縞：明瞭（断続的）

②視線方向の色変化：（馬蹄形変動の外部の無変化の青色部分 a を基準に東から西へ向かって）
青→赤→黄色

③移動方向：馬蹄形変動の内部が東へ遠ざかるないしは沈降

宇根ほか(2008)により地表変動ベクトルが示された断面東端に位置する。この付近では東向きの水平変動が卓越し、上下方向の変動は小さいとされている。干渉縞は断続的であるが、この付近には穴水層とその上位の堆積岩層との地質境界が位置する。